

# インフォメーション・コーナー

さる、10月12日に静岡県伊豆半島に上陸し翌13日にかけて、関東甲信越および東北地方を縦断した大型で強い台風19号の大雨による河川の氾濫などにより、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、家屋や農地などの被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。度重なる台風被害の一日も早い復旧・復興を祈念しております。

## 会 告

○学会創立90周年記念事業に係る感謝状贈呈についてのお詫び	96
○研究部会長の交代について	96
○消費税率の改定に伴う価格について	96
○「送料」および「振込手数料」のご負担について（再）	97
○会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について（再）	97
○新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊について	97
○学生会員入会時の特典について～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～	98
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	98
○「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について（再）	98
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集！！	98
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	99
○農業農村工学会誌投稿要項、および閲読基準の一部改正について	100
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局について	100
○学会定期刊行物の農林水産研究情報総合センター事業「AGROPEDIA」掲載について	101
○農業農村整備政策研究部会第11回研究会の開催について  11月13日開催	101
○農地保全研究部会第40回研究集会および現地研修会の開催について（第3報）  参加申込締切12月6日	102
○農研機構 農業環境技術公開セミナー in 千葉の開催について 11月15日開催	103
○令和元年度「田園自然再生活動の集い」の開催について  参加申込締切11月20日	103
○「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2019の開催について 12月4～11日開催	103
○農業農村工学会誌投稿要項	104
○農業農村工学会誌原稿閲読基準	106
農業農村工学会論文集内容紹介	107
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	109
受入れ図書	111
学会記事	111

### 第87巻第12号予定

**展望：**これからの農業農村整備と工学技術：安部伸治

**特集：**農業農村工学会創立90周年記念（Ⅱ）／農業農村整備（工学）の20年の歩みと100周年への飛躍を求めて  
大学による研究、今後の研究展望および人材育成、大学改組の事例報告  
研究機関による研究成果、開発技術、実用化事例等の紹介  
制度・事業、技術基準などの紹介および各農政局等の事業報告  
国際技術、国際研究交流、海外調査等の紹介および PAWEES の報告

### 技術レポート

北海道支部：麦類同伴播種を活用した雑草対策の効果検証：相田真人ほか  
東北支部：空積み構造のコンクリートブロック排水路の補修事例：伊藤浩二ほか  
関東支部：埼玉型ほ場整備事業「下増田地区」の取組み：西川 武ほか  
京都支部：腐食した鋼矢板水路における性能評価手法の導入：中井 雅ほか  
中国四国支部：小田川沿岸で浸水被害を受けた農業用排水機場の早期復旧：植月康夫  
九州沖縄支部：樹園地の基盤整備（西海市白崎地区）：中村実津希

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2019年11月8日	関東支部	第70回支部大会	—	沼津市	87巻5,7,8号
2019年11月12,13日	東北支部	令和元年度総会・第61回研究発表会・第51回研修会・第41回地方講習会	—	秋田市	87巻6,7,8号
2019年11月13日	農村道路研究部会	第29回研究集会	スマート農業の普及・地域活性化に寄与する農村道路・基盤整備のあり方	新潟市	87巻7,8,10号
2019年11月13日	農業農村整備政策研究部会	第11回研究会	広域協定に基づく多面的機能支払交付金を支える見附モデル	東京都	87巻11号
2019年11月14,15日	九州沖縄支部	令和元年度支部大会	—	大分市	87巻4,8号
2019年11月27,28日	京都支部	第76回研究発表会	—	和歌山市	87巻4,6号
2019年11月29,30日	水文・水環境研究部会	第32回シンポジウム	—	茨城県阿見町	87巻9号
2019年12月7日	応用水理研究部会	令和元年度講演会	—	名古屋市	87巻9号
2019年12月17,18日	農地保全研究部会	第40回研究集会・現地研修会	亜熱帯島嶼域における農地保全と水環境の保全	石垣市	87巻9,10,11号
2019年12月4日	北海道支部	令和元年度講習会	—	札幌市	87巻10号

### 学会創立90周年記念事業に係る感謝状贈呈についてのお詫び

このたびの学会創立90周年記念事業として行いました関係団体への感謝状の贈呈につきまして、事務的な手違いにより、(株)ジルコ様に贈呈することができませんでした。

(株)ジルコ様には、大変ご迷惑をおかけし、心より深くお詫び申し上げます。

つきましては、2019年12月16日(月)の理事会において、改めて感謝状を(株)ジルコ様へ贈呈することにいたしますので、関係機関の皆様には、よろしく、ご理解をお願い申し上げます。

### 研究部会長の交代について

2019年7月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

水土文化研究部会

新部会長 渡邊 紹裕 (熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター特任教授)

前部会長 太田 信介

2019年10月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

材料施工研究部会

新部会長 小林 範之 (愛媛大学農学部教授)

前部会長 北辻 政文

### 消費税率の改定に伴う価格について

農業農村工学会では2019年4月から外税表示に変更しておりますが、「本体価格+税」では分かりにくいとのご意見がありましたので、消費税率10%改定後の税込価格をご案内いたします。

なお、別途送料等のご負担がございますので、詳細は次ページをご確認ください。

●定期行物  
学会誌 1冊 税込価格 1,226円

論文集	会員年間購読料	
	名誉、正会員	8,327円
	学生会員	4,400円
	非会員年間購読料	16,654円
PWE誌	年間購読料	
	名誉、正会員	9,900円
	学生会員	4,950円

※バックナンバーの販売も消費税率を10%とした販価。

●出版物の販売価格		超過ページ 1 ページ	16,500 円
図書は、消費税率を 10%とした販価。		冊子体カラー印刷 1 ページ	101,200 円
●別刷・その他の取扱い	税込価格	●技術者継続教育機構 (CPD)	
学会誌 超過ページ 1 ページ	11,000 円	CPD 登録料 (個人登録者の登録初年度のみ)	1,048 円
別刷 1 部	84 円	CPD 個人年間利用料 CPD のみ	4,191 円
別刷表紙 1 編	3,240 円	学会員	2,619 円
論文集 掲載料		CPD 法人年間利用料 A 区分	523,810 円
研究論文, 報文, 展望	33,000 円	B 区分	314,286 円
研究ノート	22,000 円	C 区分	104,762 円
筆頭者未購読加算	5,500 円	CPD 認定プログラム申請料 (1 研修) D 区分	31,429 円
筆頭者非会員加算	11,000 円	CPD 取得証明書代金 (1 通)	1,048 円
J-STAGE 早期公開	4,400 円		

「送料」および「振込手数料」のご負担について (再)

宅配便や郵便の料金値上げに伴い、従来学会負担としていた以下の「送料」および「振込手数料」について、2018 年 8 月 1 日からご購入者の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

・購入図書 1 冊につき  
送料 200 円 (600 円を上限とする)  
ただし、代金引換の場合は送料の実費を負担いただきます。

会費等の「振込手数料」のご送金者 (会員様等) 負担について (再)

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、2019 年 4 月 1 日からすべての「振込手数料」をご送金者 (会員様等) の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいたします。

【主な対象となる振込手数料】  
① 会費  
② CPD に関わる費用

新刊「改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典」の発刊について

農業農村工学会では、創立 90 周年の記念事業として、「改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典」を 2019 年 8 月 27 日に出版いたしました。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,700 円 + 税	4,500 円 + 税

図書の購入方法

I. 個人・法人の場合 (賛助会員を除く)

以下のいずれかによる代金先払いをお願いします。または代金引換をご利用ください。

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先をご記入ください。  
振込口座番号：00160-8-47993 加入者名：公益社団

法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を同封してください。  
③ 代金引換：図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail か FAX でお送りください。別途、代引手数料と送料の実費がかかりますので担当者からご連絡いたします。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を E-mail か FAX でお送りください。

III. 送料

1 冊 200 円, 2 冊 400 円, 3 冊以上 600 円

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

## 学生会員入会時の特典について ～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～

農業農村工学会では、将来を担う若い方達が早くから学会活動に参加することを通じて、よりよく社会に貢献できる環境づくりを目指しています。その一環として、学生の方々が少しでも入会しやすいように、学生会員入会特典を設けております。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

### ①ハンドブック3点セット

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000円 (15,750円)

大学院生 19,500円 (16,750円)

### ②必携3点セット

(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000円 (5,750円)

大学院生 10,000円 (7,250円)

### ③2点セット

(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000円 (3,750円)

大学院生 8,000円 (5,250円)

( )内の金額は、10月1日以降(半期)入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを後日提供する予定です。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携(第二版)

用語事典：改訂6版 農業農村工学標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail : [suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

## 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

## 「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について (再)

農業農村工学会技術者継続教育機構では、技術者自身がCPD登録期間中の「認定ポイント」、「取得ポイント」、「過年度の研鑽履歴のトレンドをグラフ化した情報」などを確認し、目指す専門分野の技術力向上や資格取得に向けて効率よく研鑽ができるよう、2019年3月18日から「CPD 技術者サポート票」

(Excelファイル)の無料ダウンロードサービスを開始しました。ご利用手順などについては当機構ホームページの「お知らせ一覧」をご参照ください。

[http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/CPD\\_engineersupport\\_190320.pdf](http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/CPD_engineersupport_190320.pdf)

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であ

り、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利

用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載号の月から翌月末日まで

（例：学会誌11号掲載の問題は12月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第87, 88巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A4判1,500字以内)
第87巻第12号 学会創立90周年記念II (仮)	—
第88巻 1号 農業農村工学におけるソフトウェアの開発と利用 (仮)	終了
2号 東日本大震災からの復旧・復興 (仮)	終了
3号 新規就農者の可能性とそのための課題や取組み (仮)	終了
4号 農業農村工学分野におけるJABEE認定プログラムの持続可能性と課題 (仮)	終了
5号 Society 5.0に向かう農業農村工学 (仮)	11月10日
6号 農業水利施設の補修工法選定上の課題 (仮)	12月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
(公社)農業農村工学会  
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて  
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494  
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

採用された原稿の分量は、刷り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

第88巻第5号テーマ「Society 5.0に向かう農業農村工学」(仮)

Society 5.0とは、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画においてわが国が目指すべき未来社会の姿として3年ほど前に提唱されました。Society 5.0の基本的なコンセプトはサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会と定義されています。

も、これまでの小特集で、IoT、ICTの導入事例やソフトウェア開発などの個別技術についてさまざまな取組みを紹介しています。また、自動運転農機が実用化の段階に達するなど、周辺分野でもさまざまな技術革新が起こっています。

このような動きに対応して、農業農村工学の技術者・研究者として求められる役割やあるべき姿が急速に変化していくことが考えられます。たとえば、Society 5.0のための農業農村インフラはこれまでの時代のものとは大きく異なるはずで

政府が2019年6月21日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2019」(骨太方針)の副題は、「『令和』新時代:『Society 5.0』への挑戦」であり、Society 5.0の実現に向けた流れが各方面で加速しています。農業農村工学会誌において

そこで、本特集では、Society 5.0に向けた農業農村工学の先進的な取組み、今後の展望などについて紹介・解説する報文を広く募集し、情報交換の場といたします。

## 第88巻第6号テーマ「農業水利施設の補修工法選定上の課題」(仮)

農業水利施設に対してストックマネジメントの導入が鋭意進められてきています。特に重要となるのが、営々と築き上げられてきた各種農業水利ストックの長寿命化であり、縮小するわが国の社会・経済状況に応じた適切な維持管理をもとに、良いものをできるだけ長く利用する、というコンセプトを実現するために必要となります。

長寿命化を支える対策技術のひとつに構造物に対する補修工法があります。農業水利施設の特徴を反映した各種基準、品質規格やマニュアルの整備がひととおり完了し、これらを用いた適用事例も増えました。一方で、想定よりも早く再劣化が生じる事例や、その結果再度の補修が必要になった事例なども散見されます。この原因としては、選定した補修材料や補修工法と、施工条件や供用環境条件などの適用性に起因するものが多

いと考えられます。しかし、こういった事例はあまり多く開示されることはありません。

工学が実学である以上、失敗をどれだけ活かし、学ぶことができるか、にかかっていると言っても過言ではありません。失敗を繰り返さないためには、予期せぬ結果に至った原因を究明し活かすことにこそ、学術の発展があります。

上の視点に立ち、本小特集では、単なる補修事例の報告でなく、対策工法への取組みから得られた知見や技術的課題を共有すること、基準やマニュアル等の改善のポイント・方針の提案などを、技術者・研究者・行政などのさまざまな立場からご紹介いただくことを目的とします。学会誌「水土の知」掲載の報文として広く皆様から原稿を募集いたします。

## 農業農村工学会誌投稿要項、および閲読基準の一部改正について

学会誌企画・編集委員会

学会誌企画・編集委員会では、投稿要項、閲読基準の一部改正(案)について、定期刊行物委員会に検討を依頼し、その案を2019年9月20日の第256回理事会に報告したところ、承

認されました。詳細については、本誌104~106ページをご覧ください。

会員の皆様のご理解をお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2018年7月から2020年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター(IF)は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水(排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生、陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災(施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画(農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム(水田農業と水環境、土壌環境、気

象環境)

- ⑩ 水田の多目的利用(田畑転換、施設園芸)
- ⑪ 農業政策(農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(19名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

## 編集体制

・Editor-in-Chief: Dr. Takao MASUMOTO (Japan)

Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・Editors 11カ国から19名

・Editorial Advisors 29名

・Chief Managing Editor

Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

・ **Managing Editors**

**Dr. Eunmi Hong**

Kangwon National University, Korea

**Dr. Inhong SONG**

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

**Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Kuo-Wei LIAO**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Dr. Hiroshi IKEURA**

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

**Dr. Andrew WHITAKER**

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2018年7月から2020年6月まで)

・ **Dr. Kimihito NAKAMURA**

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

**投稿先** : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

**投稿資格** : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

**投稿要領等** : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

**発行スケジュール** : 年4回 (オンラインジャーナル)

**購読料** : 正会員・名誉会員 9,000円+税

学生会員 (院生含む) 4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

**申込先** : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

学会定期刊物の農林水産研究情報総合センター事業「AGROPEDIA」掲載について

学会誌企画・編集委員会 論文集企画・編集委員会

農業農村工学会誌、農業農村工学会論文集は、(独)科学技術振興機構のJ-STAGEで報文等を公開しておりますが(学会誌、論文集ともに掲載から1年後に公開。学会誌第80巻以降は作業中)、農林水産研究情報総合センターから掲載依頼を受け、新たに同センターポータルサイト「AGROPEDIA」に報文等を掲載することといたしました。

この件に関しましてご不明の点がありましたら、当学会事務局にE-mailまたはFAXでお申し出ください。

●対象誌

農業農村工学会誌 第81巻第10号～

農業農村工学会論文集 第287号～

なお、学会誌、論文集に掲載した1年後に「AGROPEDIA」に登載されるように手続きをいたします。

**問合せ先** 農業農村工学会事務局

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

E-mail : [suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

農業農村整備政策研究部会第11回研究会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村整備政策研究部会では、下記のとおり、第11回研究会を開催します。多面的機能支払交付金事業は2015年に法律措置となつてから4年が経過したところですが、社会的情勢の変化などにより、地域の人手不足等のさまざまな課題が顕在化しており、こうした新たな課題への対応が政策に求められています。

そこで、(一社)農村振興センターみつけの椿 一雅事務局長に、「広域協定に基づく多面的機能支払交付金を支える見附モデル」と題して、多面的機能支払交付金事業の広域連携や田んぼダムの普及の実践者の観点から、政策課題などについてお話

いただきたいと思います。奮ってご参加願います。

記

1. テーマ 広域協定に基づく多面的機能支払交付金を支える見附モデル
2. 日時 2019年11月13日(水) 16:00～18:00
3. 場所 農業土木会館2階A会議室
4. 次第
  - ①部会長挨拶 16:00～16:05
  - ②講演 16:05～17:05

東京大学准教授 飯田俊彰

「広域協定に基づく多面的機能支払交付金を支える見附モデル」

(一社)農村振興センターみつけ事務局長 椿 一雅

③質疑応答と討議 17:05~18:00

5. 参加費 参加費として、1,000円を徴収させていただきます。

6. 懇親会

研究会終了後に立食懇親会(会費2,000円、18:15~19:30)を開きます。

7. 参加申込み

農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>、

研究会→農業農村整備政策研究部会をクリック)で部会員登録(無料)をした上、下記の部会事務局まで出席の申込み(懇親会参加も含む)を伝えてください。

なお、本講演は技術者継続教育機構認定プログラム(CPD)2単位を申請しています。

8. 事務局(問合せおよび参加申込み)

参加申込みおよび不明な点がございましたら、担当の草, 三上, 小泉(以下の連絡先)までご連絡ください。

TEL: 03-3591-5798

E-mail: seisaku-bukai@jsidre.or.jp

## 農地保全研究部会第40回研究集会および現地研修会の開催について(第3報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会は、農地保全に関する基礎的な研究と応用に関する総合的な研究を行うことにより、農業農村工学分野の学術・技術の振興と社会の発展に寄与することを目的としています。本年度は「亜熱帯島嶼域における農地保全と水環境の保全」をテーマとして、亜熱帯島嶼地域の農村農地の整備・保全と水環境の保全等の取組み事例紹介や学術報告と討論を通じ、参加者の知見を広げ、今後の農村農地の整備・保全と水環境の保全に係る教育、研究、行政施策等の展開につながることを期待して、講演・総合討論を行います。

1. 主催 農業農村工学会農地保全研究部会

2. 後援(予定) 内閣府沖縄総合事務局, 沖縄県, 国土里ネットおきなわ, 琉球大学

3. 日時(予定)

- (1) 研究集会 令和元年12月17日(火) 13:00~17:00
- (2) 情報交換会 令和元年12月17日(火) 18:00~20:30
- (3) 現地研修会 令和元年12月18日(水) 9:00~15:00

4. 場所

- (1) 研究集会: 沖縄県八重山農林水産振興センター講堂(石垣市)
- (2) 情報交換会: うりずん(石垣市)
- (3) 現地研修会: 国営かんがい排水事業石垣島地区エリア(石垣市)

5. 研究集会テーマ

亜熱帯島嶼域における農地保全と水環境の保全

6. 研究集会プログラム(案)

基調講演1 農地保全と水環境の保全に資する赤土流出防止対策(仮)

農林水産省農業用水対策室長 山田美紀  
基調講演2 環境条件を勘案した土地の整備と管理—これからの農地保全—

琉球大学農学部教授 中村真也

一般講演4題

基調講演/講演を踏まえた総合討論

7. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、(株)日本旅行沖縄を通じて行います。農業農村工学会ホームページ内の農地保全研究部会の「農地保全研究部会第40回研究集会・現地研修会の開催について」にアクセスし、(株)日本旅行沖縄研究集会申込み専用サイトからお申込みください。

(2) 申込期限 令和元年12月6日(金)

(3) 参加費等 研究発表会 2,000円  
情報交換会 6,000円程度  
現地研修会 4,000円程度

8. 開催地事務局

農地保全研究部会第40回研究集会・現地研修会運営事務局

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

琉球大学農学部 担当: 中村, 木村

E-mail: s-kimura@agr.u-ryukyu.ac.jp

TEL: 098-895-8788

9. その他

農地保全研究部会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/nouchihozen/>) も併せてご確認ください。

## 農研機構 農業環境技術公開セミナー in 千葉の開催について

1. 主催 農研機構農業環境変動研究センター

農研機構農村工学研究部門

農研機構中央農業研究センター

千葉県農林水産部

後援 農業農村工学会ほか3学協会等

2. 期日 令和元年11月15日(金) 13:00~16:40

3. 会場 千葉商工会議所 第1ホール

〒260-0013 千葉市中央区中央2-5-1

4. テーマ  
水系を通じて拡散する侵略的外来種のリスク管理
5. その他

セミナーの詳細は、農研機構農業環境変動研究センターのホームページ (<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2019/10/132478.html>) をご覧ください。

### 令和元年度「田園自然再生活動の集い」の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 (一社)地域環境資源センター  
田園自然再生活動協議会
2. 後援 農業農村工学会ほか4学協会等
3. 日時 令和元年11月25日(月)13:00~17:10
4. 場所 東京大学弥生講堂(一条ホール)  
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
5. テーマ  
世界に広がる農村の魅力 地域づくりのこれから
6. 参加費 無料(交流会の参加を希望される方は別途3,000円)
7. 定員 150名
8. 申込み方法

参加を希望される方は、所定の「参加申込書」に必要事項を記入し、問合せ先までFAX, E-mail, 郵便のいずれかにてお申し込みください(申込締切日は11月20日)。

「参加申込書」は同センターのホームページ (<http://www.jarus.or.jp>) からダウンロードできます。

#### 9. 問合せ先

(一社)地域環境資源センター 農村環境部内  
「田園自然再生活動の集い」事務局  
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館6階  
TEL: 03-5425-2461 FAX: 03-3432-0743  
E-mail: [denen-saisei@jarus.or.jp](mailto:denen-saisei@jarus.or.jp)

### 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2019の開催について

1. 主催 全国土地改良事業団体連合会  
都道府県土地改良事業団体連合会
- 後援 農業農村工学会ほか
2. テーマ 「新発見! ほくのわたしのふるさと」
3. 受賞作品展示  
期日: 2019年12月4日(水)~11日(水)

会場: 東京都美術館 1階第二展示室

#### 4. その他

詳細は、全国土地改良事業団体連合会ホームページ「イベント関係・子ども絵画展」(<http://www.inakajin.or.jp/eventinfo/tabid/267/Default.aspx>) をご覧ください。

## 農業農村工学会誌投稿要項

(平成 19 年 9 月 21 日改正)

(2019 年 9 月 20 日改正)

### 1. 編集の基本方針

農業農村工学会誌企画・編集委員会（以下、「編集委員会」という）は、学会誌ができるだけ多くの会員に読まれ役立つものであるとともに、親しみやすいものであるよう心がけています。編集に当たっては、学会誌が農業農村工学関係者としての幅広い知識・教養を身につけ、また情報収集・意見交換を行う場として、さらに会員同士の連帯感を深める機関誌として役立つことを重視しています。そのため、報文・レポート等は、関心をもつ読者層が多い共通のテーマを優先し、狭い専門的な研究、難解な表現や内容のものは基本的に好ましくないと考えています。

なお、会員個人の専門的研究成果の発表は、学会誌とは別に農業農村工学会論文集（研究論文、研究報文、研究展望、研究ノート）に門戸が開かれています。

### 2. 原稿の種類

編集委員会では表-1 に示すような形で、多くの会員のニーズに対応できるように多様な掲載区分を設けております。投稿者は、これらの区分のいずれかを指定して投稿してください。多くの会員の方々からの投稿を歓迎します。なお、いずれの区分にも入りにくい種類の投稿原稿については、編集委員会で改めて検討し、取扱いを決めます。

また原稿には、

- ① 編集委員会から依頼する原稿（依頼原稿）
- ② 特集テーマについての公募等による原稿（公募原稿）
- ③ 自由に投稿できる原稿（自主投稿原稿）

の3種類の区別があります。

なお、自主投稿による報文・レポートは、編集の都合で小特集等に取り込むことや掲載時期が調整されることがあります。

### 3. 投稿者の資格

筆頭著者は農業農村工学会名誉会員、正会員、学生会員に限りません。ただし、依頼原稿の場合はこの限りではありません。

### 4. 投稿原稿の内容および具備すべき条件

投稿原稿は、原則的に未発表のものとし表-1 の各掲載区分の内容および下記の条件に則していることが必要です。

- ① 多くの会員にとって有益であること。
- ② 報告する課題が明示され、それに対する記述が簡潔、明瞭で1編をもって完結していること。
- ③ 論旨がはっきりしていて、内容・表現等に誤りがないこと。
- ④ ごく少数の会員の興味しか引かない、狭い専門的課題に偏っていないこと。
- ⑤ 難解な文章、特殊な用語などが使用されず、多くの会員に想定される知識によって理解できること。
- ⑥ 著しく商業主義に偏っていないこと。
- ⑦ 関連文献の引用が適切であり、これらが広く公表されていること。

ただし、投稿原稿がすでに発表されている場合であっても、次に掲げるいずれかの項目に該当する場合は投稿を受付けますので、既発表の内容については、その旨を本文中に明確に記述してください。

- ① 依頼原稿であって、同一著者が、ほぼ同じ内容を他誌に発表（投稿中も含む）している場合でも、本誌掲載のため構成し直したものの。

② 個々の内容についてはすでに発表されているが、それを統合することにより価値のある内容となっているもの。

③ 限られた読者にしか配布されない刊行物および行政資料等に発表されたもの。

### 5. 公募原稿の手続き

公募原稿については、まず定められた期日までに A4 判、1,500 字以内（図表を含む）の要旨を提出してください。これにより特集への採用の可否を編集委員会で判定し、あらためて原稿の執筆依頼をいたします。

### 6. 原稿の書き方

原稿の書き方については、「原稿執筆の手引き」によります。下記学会ホームページをご参照ください。

<http://www.jsidre.or.jp/journal/>

### 7. 閲読と掲載の採択について

7.1 投稿原稿の学会誌への掲載の採択は、編集委員会が決定します。

閲読は、投稿原稿が学会誌に掲載される原稿として、ふさわしいものであるかどうかを判定することを目的として行われます。

閲読者は、編集委員会が指名し、依頼します。編集委員会は、閲読結果と本誌編集の趣旨（前項 4. および表-1（内容）等）に照らし、表現の修正、加筆、書き換え等をお願いすることがあります。

7.2 指摘事項に対する対応表とともに修正原稿を事務局へ期日内に返稿してください。

なお、このように修正依頼をした場合、返稿後6カ月以内に再提出がない場合には不採択（小特集報文の場合は返稿期日厳守）とします。

### 8. 著者校正

受領後3日以内に校正し、原稿とともに返送してください。

### 9. 掲載された記事の著作権

学会誌に掲載された記事の著作権（著作財産権、copyright）は、(公社)農業農村工学会に帰属します。記事の全体または一部をほかの著作物に利用する場合、事前に(公社)農業農村工学会の承諾を得るものとします。

ただし、著者個人、著者が帰属する法人または団体のウェブサイトにおいて、著者が自ら創作した掲載記事を掲載する場合は、下記の2つを条件に該当記事の電子著作物について掲示することを認めます。

- ① 掲載によって生じる結果に対して責任を著者が負うこと。
- ② 掲載記事の著作権（著作財産権、copyright）が(公社)農業農村工学会に帰属することをウェブサイト上に明示すること。

### 10. 原稿料

依頼原稿については、別に定める基準により原稿料を支払います。

### 11. 別刷

別刷の贈呈はなく、希望者には有料にて作成いたします。

### 12. 原稿の提出先

原稿（電子媒体を原則とする）の提出先は、(公社)農業農村工学会内「農業農村工学会誌企画・編集委員会」(henshu@jsidre.or.jp) といたします。

表-1 学会誌の掲載区分

区分	規定ページ	内 容	備 考	
表紙	表紙写真	1 枚	農業農村工学会に関わりがあり、かつ表紙を飾るにふさわしい写真、およびそれに準ずるもの。	公募
巻頭	目次	4 ページ	(1) 小特集予定、行事予定一覧表、重要会告 (2) 見開き目次 (3) 英文目次	
	口絵	1, 2, 3 ページ	農業農村工学のトピックス、現場、海外、その他のカラー写真。	依頼
	展望	2 ページ (2,000 字)	斯界のオピニオンリーダーに農業農村工学を語ってもらう。	依頼原稿 (顔写真添付)
学術・技術レポート	報文	4 ページ (8,000 字)	農業農村工学に関わる学術、技術、事業、政策、教育などを対象とし、多くの会員にとって有益なもので、技術の開発・改良・適用の事例、現象の分析・把握、課題の提起などについて著者の考察、見解が含まれているもの。	依頼原稿、公募原稿、自主投稿原稿 (顔写真、略歴、英訳表題、キーワード、内容紹介添付)
	レポート	4 ページ (8,000 字)	学術、技術、教育などを総括したもの、特定のテーマ・技術分野について解説したもの、シンポジウム等で報告された内容をまとめたもの、および、国際会議・国際交流、海外事情等の報告。	依頼原稿、公募原稿、自主投稿原稿 (顔写真、略歴、英訳表題、キーワード、内容紹介添付)
	行政の窓	4 ページ (8,000 字)	政策に関する事項	依頼原稿、自主投稿原稿 (顔写真、略歴、英訳表題、キーワード、内容紹介添付)
	技術レポート	2 ページ (4,000 字)	農業農村工学に関わる現場報告や事例、技術の工夫、地域として特色のある工法の紹介および学生のフィールド調査結果など。特に現場技術者にとって有益となる内容のもの。	依頼原稿、自主投稿原稿 (顔写真、略歴、英訳表題、キーワード、内容紹介添付)
	講座	4 ページ (8,000 字)	農業農村工学に直接・間接に関係する学術や技術などについてテーマを定めて体系的に解説する連載講座。	依頼原稿 (顔写真、略歴、英訳表題、キーワード、内容紹介添付)
	小講座	1 ページ (1,800 字)	新制度および科学の発展、技術の開発などによって生じた用語やその他会員にとって有益とみなされる用語の解説。	依頼原稿 (英訳表題、キーワード添付)
	コミュニティ・サロン	私のビジョン、エッセイ	3 ページ (5,300 字)	提言、ビジョン、エッセイなど会員の意見。
論文をかたる		2 ページ (4,000 字)	発表された研究論文の背景などについて著者に語ってもらう。	依頼原稿 (スナップ写真添付)
ニュース		1 編 (1,200 字程度)	「行政機関などが発表した報告・資料」、「計画・設計・管理に関する基準・指針」、および、「内外の農業農村工学界の出来事」等のうち学会員に有益と思われるもの。	依頼原稿、自主投稿原稿
オフィス便り		2 ページ (4,000 字)	職場・現場などの紹介や会員の声。	自主投稿原稿
キャンパス便り		2 ページ (4,000 字)	キャンパスの紹介や学生会員の声。	自主投稿原稿
委員会・部会報告		2 ページ程度 (4,000 字程度)	委員会報告および部会研究集会、支部講演会の発表報告など。	
書評		(1,200 字)	新刊図書の書評、紹介など。	依頼原稿
インフォメーション	受入れ図書		(事務局作成)	
	論文集内容紹介		(事務局作成)	
	PWE 内容紹介		(事務局作成)	
	会告		(事務局作成)	
	学会記事		(事務局作成)	
その他	特別寄稿	2 ページ (4,000 字)	展望に準ずる内容。	依頼原稿
	特別報告	2 ページ (4,000 字)	内容はレポートやニュースに準ずる。ただし数編によりまとめたもの。	依頼原稿

※なお、編集委員会が必要と判断した場合は、新たに掲載区分を設けることがある。

## 農業農村工学会誌原稿閲読基準

(平成14年2月19日改定)

(平成19年9月21日改正)

(2019年9月20日改正)

農業農村工学会誌(以下、「学会誌」という)は、学会の機関誌であり、会員にとって有益な学術、技術、教育等農業農村工学に関する専門情報、あるいは情報交換の場を提供する専門誌である。そのため学会誌投稿要項に示すように、なるべく多くの会員に読まれ役立つものであり、かつ親しみやすいものであることを編集の基本としている。

原稿の閲読は、農業農村工学会誌企画・編集委員会(以下、「編集委員会」という)が学会誌への掲載の可否を判定するための材料を提供することを目的とする。

## 1. 閲読の姿勢

閲読は、投稿された原稿が学会誌に掲載されるにふさわしい内容と水準を保持しているものであるか否か、また原稿の中に明らかな誤りがないか、読者に読みやすいものであるかなどを判定するために行う。したがって、投稿者の見解や原稿の内容を批判したり、指導したりするものではない。

## 2. 閲読者

- 1) 編集委員会が該当原稿の内容からみて、適当と思われる人に閲読を依頼する。
- 2) 報文・レポートについては、原則として当該原稿について造詣の深い人に依頼する。
- 3) コミュニティサロンの原稿は、編集委員会の関係小委員会で閲読する。
- 4) 閲読者の氏名は公表しない。
- 5) 著者との折衝は、すべて編集委員会が行い、閲読者が直接著者との折衝はしない。
- 6) 報文・レポートの原稿については、閲読者は2名とし、そのほかは1名とする。
- 7) 同一執筆者による連続した数本の報文については、原則として閲読者の一人を固定して内容の重複等のチェックに当たる。ただし、閲読者を固定するか等の最終決定は編集委員会で議論し、委員会の責任で実施する。
- 8) 閲読者は閲読上知り得た情報については、これを外部に漏らしてはならない。

## 3. 閲読基準

- 1) 投稿された原稿が、学会誌投稿要項に則ったものであるか

どうかを判定するものとする。なお、要項では原稿が次の条件に則していることを求めている。

- ① 多くの会員にとって有益であること。
  - ② 報告する課題が明示され、それに対する記述、内容が簡潔、明瞭で1編をもって完結していること。
  - ③ 論旨がはっきりしていて、内容・表現等に誤りがないこと。
  - ④ 少数の会員の興味しか引かない、狭い専門的課題に偏っていないこと。
  - ⑤ 難解な文章、特殊な用語などが使用されず、多くの会員に想定される知識によって理解できること。
  - ⑥ 著しく商業主義に偏っていないこと。
  - ⑦ 関連文献の引用が適切であること。
- 2) 報文・レポートは、農業農村工学の学術ならびに技術に関連して会員にとって特に有益とみなされるもの。
  - 3) 私のビジョン等コミュニティサロンの原稿は、広く農業農村工学の学術ならびに技術に関連して会員の参考になるとみなされるもの。

## 4. 閲読後の取扱い

閲読結果は、編集委員会で、次のように処理する。

- 1) すべての閲読者の判定が①「適」の場合は、そのまま掲載について検討する。
- 2) 判定②「条件付き適」が含まれる場合は、閲読者の意見を勘案し、編集委員会は著者に加筆、訂正を求める。もちろん、この間編集委員会は著者に対し、原稿の内容に関して指導的立場に立つものではない。  
また、編集委員会の判断により、第三の閲読者を依頼することもある。
- 3) すべての閲読者の判定が③「不適」の場合は、編集委員会は原則として掲載不可と判定するものとし、不適の理由を付して著者へ通知する。  
ただし、編集委員会の判断により、さらに第三の閲読者を依頼することもある。